

さいたま緑のトラスト協会 0号地・緑のサポート隊、第7回定例会議事録

令和5（2023）年7月05日 <出席者 人>

一 事務局から

- ① 今年度の緑の募金活動が7月3日からスタート、3月までの年度中展開する。
- ② 11月14日（火）県庁オープンデーのクラフト教室は10：00～16：00。
- ③ ボランティアセミナー応募締め切り8月25日、募集30人。直近10年の受講者数推移<R4=14、R3=21、R2=18、R1=10、H30=12、H29=13、H28=9、H27=11、H26=12、H25=24> などが報告された。

一 7月9日（日）、14号地（三芳町）「森の散策とクラフト体験」への応援が鈴木一人となったため、出展プログラムをガリガリトンボ、木ごま、鉛筆ブローチに絞って出展を決定。鉛筆ブローチは色塗り主体の簡単な作り方に限定。最終荷造り確認。

一 7月2日（日）、江古田幼稚園（東京・練馬区）に子供たちが飾る七夕用の竹を15本ほど提供。昨年から2度目だが、0号地の加藤勝造さんを通じて依頼があり、エコエコが受託管理している畑の緑から園長さんに直接手わたした。⇒七夕飾りに使う竹がプラスチックなどの代替品に変わりつつあるとのことで、子供たちが本物を体験できる「?」。何かないでしょうか。

一 杉玉に関して、三好さんから試作した上での経過報告があった。4号地の杉伐採に伴って試作したが①夏場のためか杉葉が硬く差し込みにくい②コア自体、アルミ線だけでなく、さらに金網をかぶせた状態にすると杉葉が刺さりやすくなる③発泡スチロールや生け花用のスポンジ玉では杉が抜けてしまうので使えない、など。このため杉玉制作時期を含めて検討を加えていく。

一 自然塾などを通じて、ボランティアが号地を超えて交流し、それぞれの活動情報を交換する場がもっとあっても良い。例えば、年度ごとのボランティアセミナー受講者が半年一緒に行動するのだから、号地を超えて交流する同期会などでも。

以上